月報

８７号

発行所　青丘文庫

編集・発行人　韓　晳　曦
〒６５４　神戸市須磨区須磨寺町４－３－１
メゾンド青丘ビル２Ｆ
ＴＥＬ　（０７８）７３４－５９８９
ＦＡＸ　（０７８）７３５－０６６０

朝鮮民族運動史研究会　第一二四回例会
一九九三年六月二〇日

「日本人民反戦同盟と朝鮮義勇隊」

鹿嶋　節子

朝鮮義勇隊の活動については、最近韓国でも研究がすすめられているが、資料としては余り豊富ではなく、また、よく整理されていないように思われる。

日本人民反戦同盟は、朝鮮義勇隊が活動していた同じ時期、同じ地域で活動していた日本人の団体で、同じように中国国民党の支配地域で、中国国民党政府軍事委員会の所轄の下に抗日戦争に参加していた。日本人民反戦同盟の資料の中に、あるいは朝鮮義勇隊の資料の中に、それぞれの活動についての記述が見られるところから、反戦同盟の活動を見ることに依って朝鮮義勇隊の活動の一側面がさぐれるのではないかと考えられる。

日本人民反戦同盟は一九三九～四五年、鹿地亘が中心となって、日本人捕虜を教育し、反戦運動を行なった団体である。鹿地亘は、日本でプロレタリア文化運動に参加して治安維持法違反で検挙され、その後中国にわたって魯迅などに私淑した後、盧溝橋事件勃発以後抗戦地域に入り、国民政府軍事委員会顧問となって反戦同盟を組織した。

反戦同盟や朝鮮義勇隊が活動を開始した頃の中国は第二次国共合作の時期で、とくに、朝鮮義勇隊や反戦同盟を統括していた国民政府軍事委員会は国共合作を具現化している組織といいえた。朝鮮義勇隊は一九三八年十月、日本軍の武漢占領の直前に成立し、中国軍の敗走に伴って移動した。一方、鹿地亘は、同年三月に武漢に入り、その年の末ごろから反戦同盟の組織を計画、実際に組織したのは三九年の末であった。

もともと日本の軍人は捕虜になることを恥であると教育されてきたので、日本人の捕虜は少なかったのだが、士気の低下にともなって徐々に増え、そのなかからは、朝鮮義勇隊に加わる者もいた。反戦同盟の成立以降は反戦同盟に、朝鮮人は朝鮮義勇隊に勧誘されるようになる。

朝鮮義勇隊は中国の抗日戦での勝利が朝鮮の解放にむすびつくという思想のもとにあり、反戦同盟は侵略日本軍を内部から瓦解させ、「平和日本」を建設するという考えで、それぞれの立場は違ったが、実際の活動は、いずれも中国軍と共にあって敵に対する反戦宣伝活動、ビラや標語の製作などにあたることであった。国共合作は三九年初めには崩れはじめ、そのような情勢の変化の中で朝鮮義勇隊の一部は中国共産党の支配地域へ活動の場を移し、また、反戦同盟も解散を命じられることとなる。

反戦同盟の資料の中には中国軍の中では「先輩格」の朝鮮義勇隊の協力を得ていたことをしめす記述がかなり見られる。また、朝鮮義勇隊の資料には民反戦同盟からのメッセージ等が見られるが、まだまだ断片的なものでしかないので、今後は鹿地亘だけでなく朝鮮義勇隊に関わったほかの日本人の記録や、整理されていない朝鮮義勇隊の資料を調べる必要がある。

一九九三年六月二六日
日韓キリスト教史研究会第三四回例会
『日帝下日韓「教団」形成』問題について　後藤聡

日本基督教団という教派合同教会が創立したのは一九四一年のことであるが、これは一九三九年制定の「宗教団体法」による国家の宗教統制にキリスト教の側がすりよってできたものである。日本のキリスト教が教派の歴史的な伝統の違い（職制、聖書解釈等）をこえて、何度か教派合同の動きがあったにもかかわらず頓挫していたものが、戦争体制に協力するかたちで成立したのである。初代の統理（代表者）はあの朱基徹牧師らに神社参拝を迫るためになんども朝鮮を訪問した富田満牧師である。

さて一方日帝下朝鮮における教派合同はどうであったか。日本以上に教派意識が強かったことは、欧米宣教師が宣教地域を区割りして教会が発展していったことからも伺える。にもかかわらず圧倒的な日帝支配の中で神社参拝の強要、宣教師の帰国などにより次第に朝鮮教会も「皇民化」していくのである。

ところで一九三九年の宗教団体法は、それまでもなんどか制定の動きがあったのだが日本国内における最初の宗教統制法規である。（現在は宗教法人法）それまでは帝国憲法の「安寧秩序を妨げない限りの」信教の自由が「保証」されていたのだが宗教団体法によれば一教団としては教会数五〇、信徒数五〇〇〇人が基準とされ、それに満たないものは廃止、ないし合併を余儀なくされた。「大本教」や「ひとのみち教団」、「キリスト教」などへの統制を目的にしたことはいうまでもない。

日帝下朝鮮の宗教の法的地位は、実は日本国内よりも先行して定められた。まず「併合」以前、乙巳条約直後の一九〇六年統監府は「宗教ノ宣布ニ関スル規則」を定め、「宗教」の統制を統監に委ねたが、朝鮮人や欧米宣教師にこれは適用されない。ところが一九一五年制定の「布教規則」ではキリスト教を名指しで、また朝鮮人、欧米宣教師にも法適用され、総督に布教管理者の解任権をもたせるなど宗教統制の色合いを濃くしている。この実質策定者は総監府政務総監山県伊三郎といわれている。

三・一運動に驚愕した総督府は宗教に対してアメとムチの政策を露骨に展開することとなる。それが一九二〇年制定の「改正布教規則」である。総督府に「宗教課」を設置し宣教師の監視にあたり、また総督の判断で教会や教団のあらゆる報告の提出を求めること、場合によって教会堂の使用を禁止させることも可能とした。

平山洋という思想史専攻の研究者によれば、この「改正布教規則」が「宗教団体法」のモデルになったのではないかと指摘する。

・宗教の一括統制、・教団責任者就任の認可権、・活動や建物の使用禁止規定、・全活動の報告義務などの類似点から、戦争体制への国民総動員体制に宗教も協力しそのために「宗教統制法規」のモデルとして朝鮮人の皇民化に果たした「改正布教規則」が選ばれたとする。（「朝鮮総督府の宗教政策」一九九二年）

一九四一年に「日本基督教団」が設立され、同時期より朝鮮においても「教派合同」の声があがってくる。まず「満州」における朝鮮人教会五派が合同して「満州朝鮮人基督教会」が設立される。また四二年には各教派の機関誌が合併され「基督教新聞」が創刊される。四三年には「日本基督教朝鮮教団」設立の動きがあったが、まとまりきらず「日本基督教朝鮮長老教団」と「日本基督教朝鮮監理教団」ができる。この時安息教会、聖潔教会が解散させられ翌年浸礼教会も解散させられる。このあたりの記録は現在の韓国の教会史からは伺い知ることが困難である。「親日派」の汚名と教会の存続の関係から、またそのころの人々が存命であり、白日のもとにまだだせないということであろうか。

いずれにしろ一九四五年八月一日に「日本基督教朝鮮教団」は発足させられることとなるのである。

☆新刊☆
隣人としてのアジア
蔵田雅彦著
日本基督教団出版局
定価一九〇〇円

在日朝鮮人運動史研究会　第一五六回例会
一九九三年六月二〇日
「解放後韓国青年学生運動史」
張征峰（生野・外登常時携帯制度を廃止させる会）

この研究会に参加されている方は、どの方もそうなのでしょうが、在日朝鮮人運動を研究することは、単に学問的に問題を追求することなのではなくて、まず現在の自分がどういうふうに生きていくか、運動していくかを考えていくことにあるのだと思います。

わたしの場合、高校生のときに触れた地域の権利闘争、大学生の時、民族団体に所属する中での関わった韓国民主化運動、そして卒業後、地域で外登法抜本改正運動に参加するなかで学んだこと・・・それぞれの場で直面する闘争課題について、対応してきた経験（乏しい経験ではありますが）や学んだことを自分のために整理したい、そんな問題意識から研究をはじめました。それは単に一個人の経験則にとどまるのではなく、今後の在日運動史に貢献するのではないかとも考えます。

とりわけ解放後の在日朝鮮人青年運動史は、本国と在日、在日同胞の大衆基盤の問題を考えることでも、ある程度問題が集約されており、それがどのような問題意識によって、どのような運動理論で展開されてきたのか、さらに六〇、七〇、八〇年代と現在はどのように同じで、どう違うのか等々、重要な研究テーマだといえます。彼ら彼女らの運動が九〇年代の在日の運動にどう継承されていくものがあるのか、また逆に現在でもほとんど説得力をもたないものなのか見極めることは私にとって大きな関心事となっています。

ところが、この問題について研究しようとしても資料収集の限界、研究者が少ない（問題が生々しく実証研究の難がある）ために研究が進まないのが現状です。この運動史研究会の研究記録をみても解放後の青年学生運動をテーマにしたものは皆無では。日本政府側資料、民族団体の団史や偏った『在日朝鮮人運動史年表』（業徴書）のほか、わたしの知る限るり、単行本はもちろんミニコミでも解放後在日朝鮮人について青年・学生運動や各種運動を網羅したものは多くはないのではないでしょうか。

資料がなければ作るしかないと、基礎資料として現在データ集『年表 在日朝鮮人生活・運動史』（'45～現在）を作成することになりました（今年パンフにて発行予定ですが、紙面の都合で触れられません）。

というわけで今回はその年表の作成が中心の報告になってしまい、学生運動史は「在日韓国学生同盟（韓学同）」の活動の軌跡を簡単に触れるにとどまってしまいました。又、研究が進んだ段階でご報告をさせていただきたいと思います。

会員の方からは典拠文献などについて経験的アドバイスをいただき大変参考になりました。作業の中で生かしていきたいと思います。

また今後とも資料収集などでご協力いただくものと思います。研究会のみなさんご協力をお願いいたします。

☆新刊☆
１９９３朝鮮人・中国人
強制連行・強制労働資料集
金英達・飛田雄一編
神戸学生青年センター出版部　定価一、六四八円

☆新刊☆
朝鮮徴兵準備読本
十五年戦争重要文献シリーズ⑪
金　英達編・解説　不二出版
定価　四、五〇〇円

◆新着図書御案内◆

・満州の朝鮮人パルチザン　姜 在彦著
・１９９３朝鮮人・中国人強制連行・強制労働資料集　金英達・飛田雄一編
・隣人としてのアジア　蔵田雅彦著
・アジア市民と韓朝鮮人　徐龍達先生還暦記念委員会
・東亜日報縮刷版一九九三年二～四月　東亜日報社
・朝鮮日報縮刷版一九九二年一二月～一九九三年二月　朝鮮日報社
・責任と償い－慰安婦・強制連行　国際人権研究会編
・朝鮮人強制連行調査の記録（大阪編）
・近代日本と植民地４～８　岩波書店
・神戸電鉄敷設工事と朝鮮人労働者　神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会
・Grouth and Structual Changes in Korea　Sang-chui Suh
・The Rule of the Taewon'gun 1864-1873　Ching-Young Choe
・Drawing the Line-The Korean War,1950-1953　Richard Whelan
・The Japanese Colonial Enpire 1895-1945　Ramon H,Myer
・Korean War Almanac　Harry G,Summers
・The Dreams of Two Yi-min　Margaret k,Pai
・Asians and Pacific Islanders in The United States　Herbert R.Barringer
・The Politics of Anti-Japanese Sentiment in Korea　Sung-Hwa Cheong
・The Korean Frontier in America Immigration to Hawaii, 1986-1910　Wayne Patterson
・The Origins of The Korean War　Peter Lowe
・Materials on Korean Comminism 1945-1947　Chong-Sik Lee
・East Asian Region　Gilbert Rozman
・New God,New Nation　Kenneth M.Wells
・Cultual Nationalism in Colonial Korea　Michael Edson Robinson

◇研究会御案内◇

朝鮮民族運動史研究会　第一二八回例会
（今回はむくげの会と共催です）
一九九三年九月一二日（日）午後二時～五時
報告者　柳　東浩　氏（中国延辺在住）
テーマ「私の抗日運動」
場　所　神戸学生青年センター

日韓キリスト教史研究会　第二八回例会
一九九三年九月二五日（土）午後二時
報告者　信長　正義　氏
テーマ「積極信仰団について」
場　所　青丘文庫

☆『韓国キリスト教の歴史』翻訳打ち合わせ会
一九九三年九月一一日（土）午後二時
青丘文庫にて

★九月の在日朝鮮人運動史研究会は関東部会との合同合宿（九月一八・一九日、宇奈月温泉）にて行われます
<合宿の申込・問い合わせ>
飛田雄一（Tel ０７８－８５１－２７６０
神戸学生青年センター内）

☆新刊☆

満州の朝鮮人パルチザン
姜　在彦　著　青木書店
定価　二、〇六〇円